



# 輝け！OKB517



471名＋教職員46名

## 新たな冬のスポーツを満喫して

校長 山本 邦彦

2月2日は節分、3日は立春と暦の上では春ですが、まだ「春は名のための風の寒さや…」といった感じで、春の訪れが待たれる今日この頃です。そんな中、休み時間にはわずかな晴れ間を縫って、グラウンドやわんぱく広場で元気に遊ぶ子供たちの姿も見られます。一方でインフルエンザ等で体調を崩す子供たちも多数おり、感染症対策を徹底しながら日々の教育活動に取り組んでいます。

先日、3・4年生がスケート教室を行いました。会場の富山スケートリンク場は北京オリンピック銀メダリストの鍵山優真選手が幼少時に初めてスケートに挑戦したことで有名な場所です。ほとんどの子供たちがスケート初体験。当然のことながら、リンクに立つことすらおぼつかない子供たちでしたが、指導者の方々のアドバイスを真剣に聞く姿から少しでも上達したい気持ちが伝わってきました。

始めに教えていただいたことは、安全に転ぶことと立ち上がることでした。「最初に手をつくのではなく、お尻の柔らかい部分を横にして転びましょう。」「胸の近くで立て膝をついて、支えた方の足に体重を乗せるようにして起き上がりましょう。」恐る恐る試していた子供たちでしたが、「怖くない。大丈夫だよ。」「上手に立ち上がることができたね。」と励ましの声をもらいながら繰り返して練習するうちに、全員が立ち上がるできるようになりました。次に教えていただいたことは、氷の上を歩くことでした。氷上ではスケート靴を滑らせて、真っすぐ進みたいと思っても上手くいきません。「両手を前に出し膝を少し曲げて『ハ』の字にしながら3歩前に歩いてみましょう。」「次に、3歩歩いた後にスケート靴を真っすぐにして滑ってみましょう。」前に進むコツを覚えた子供たちからは自信にあふれる表情が見られ、「がんばって。」「上手い。」等、周りの友達に声をかける余裕もできました。その後、瓢箪を描く滑り方や後ろ向きでの滑り方、スピンの仕方まで教わり、1時間20分にわたる講習会はあっという間に終了しました。最後に自由にスケート場を滑る時には、見違えるほど上達した子供たちの姿があり、笑顔が広がっていました。

今回のスケート教室で、子供たちは、今までできなかったことができるようになる喜びを味わいました。それを後押ししたのは、具体的な分かりやすい指導、一人一人の実態に応じたスモール・ステップ、失敗を繰り返しながらも上達したいと思う姿勢に対する励ましです。このような喜びは、実際に体験しないと味わえないことです。富山の冬といえばスキーというのが定番ですが、今回のスケート体験を通して、新たに興味・関心を持ち、スポーツの楽しさを味わうことができたことが何よりです。「また今度、家族で行きたいな。」「来年のスケート教室が楽しみだ。」そんな声が広がっていました。

様々な体験を通して、自分の行動を振り返り成長する子供たちの歩みは進行中です。子供たちの頑張りを教職員一同最後まで支援し、見届けてまいります。